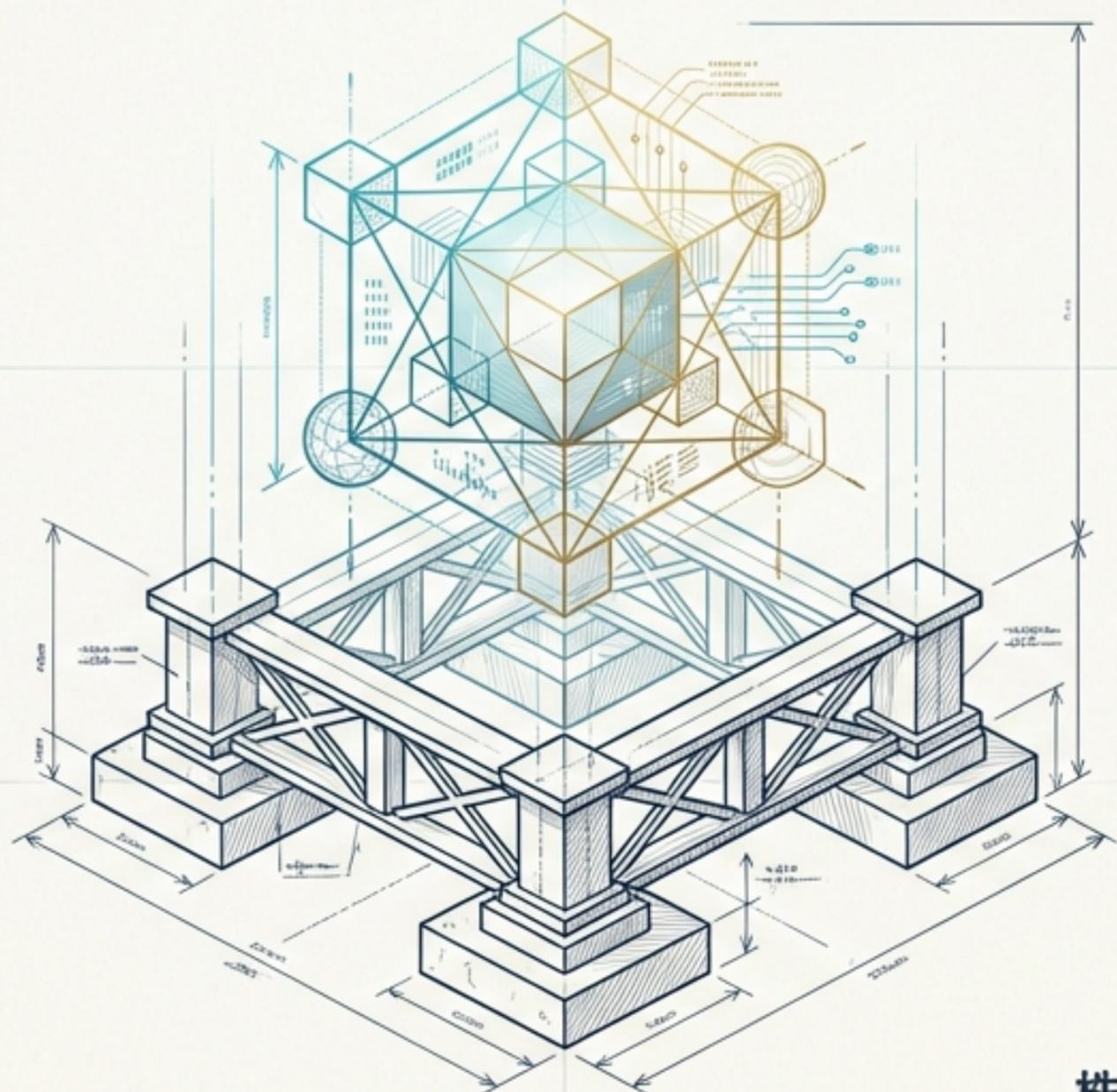


# 知識資産の設計図

プロジェクト型ビジネスにおける「真の成長」と収益管理のアーキテクチャ

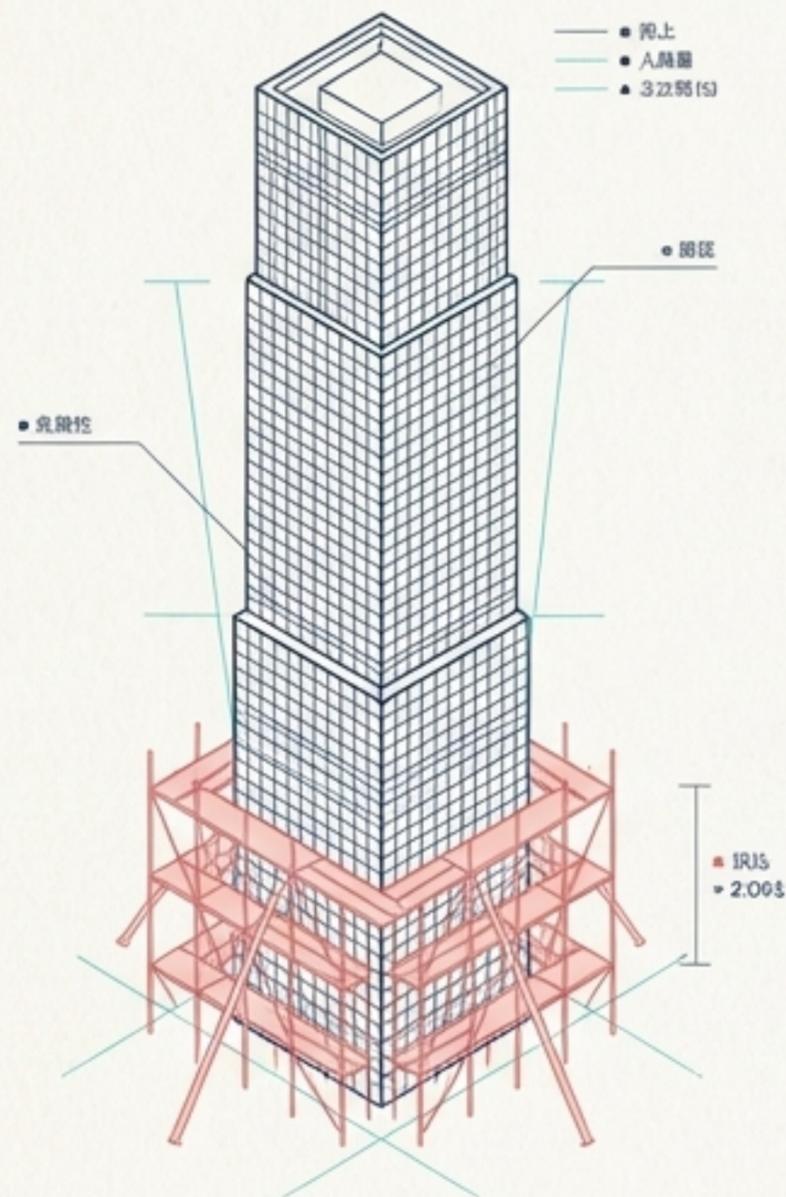


株式会社プロジェクト・イノベーション

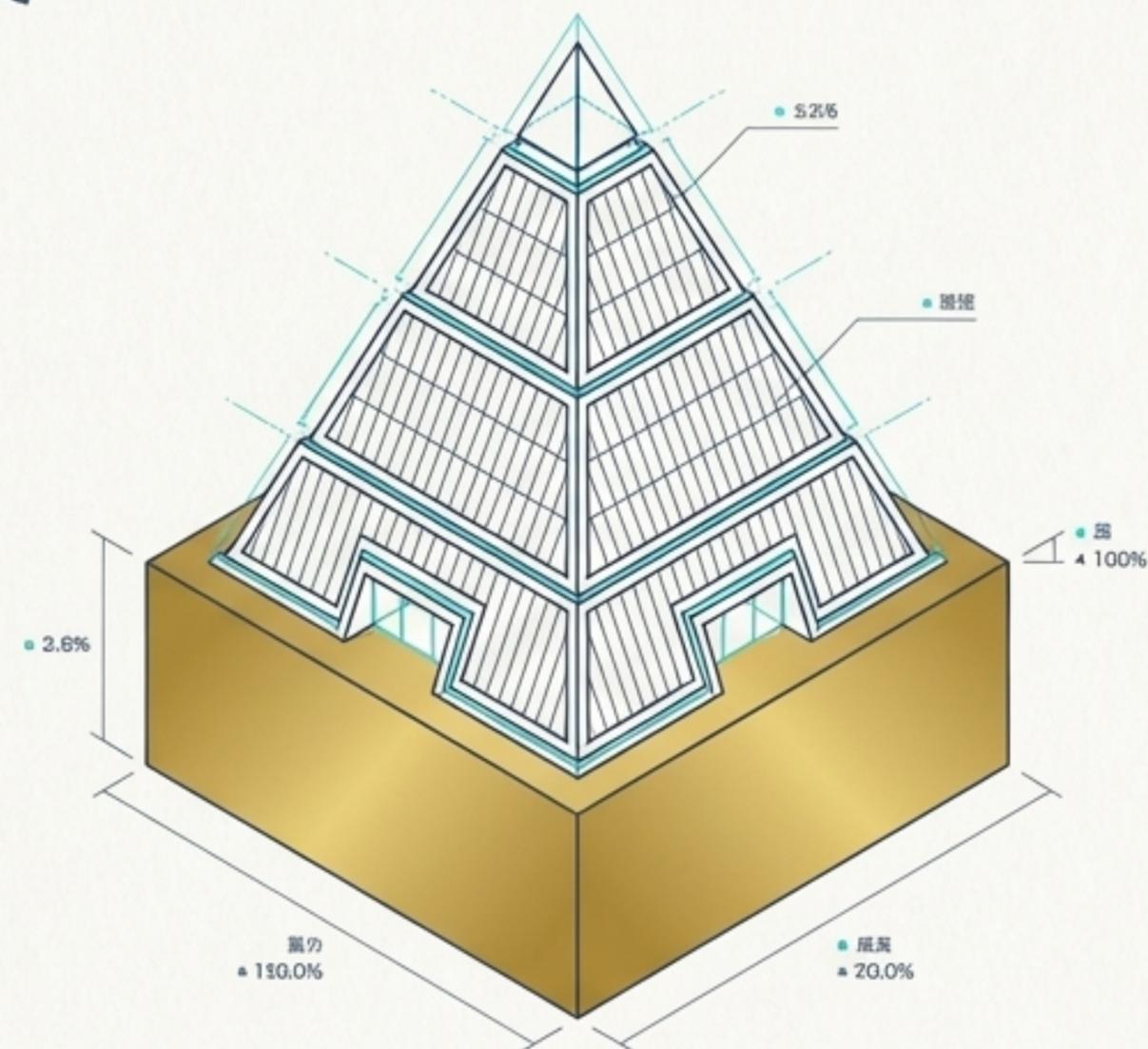
# 膨張と成長の決定的な違い

売上や人員が増えるだけでは、企業が強くなったとは言えない。それは「成長」ではなく、単に背伸びをした「膨張」に過ぎない。真の成長とは、企業の「体質（自己資本の充実）」が伴うことである。

## 膨張



## 成長



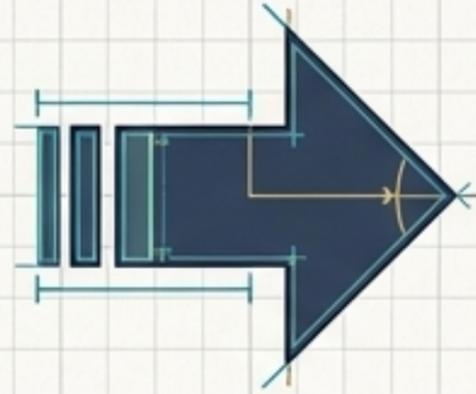
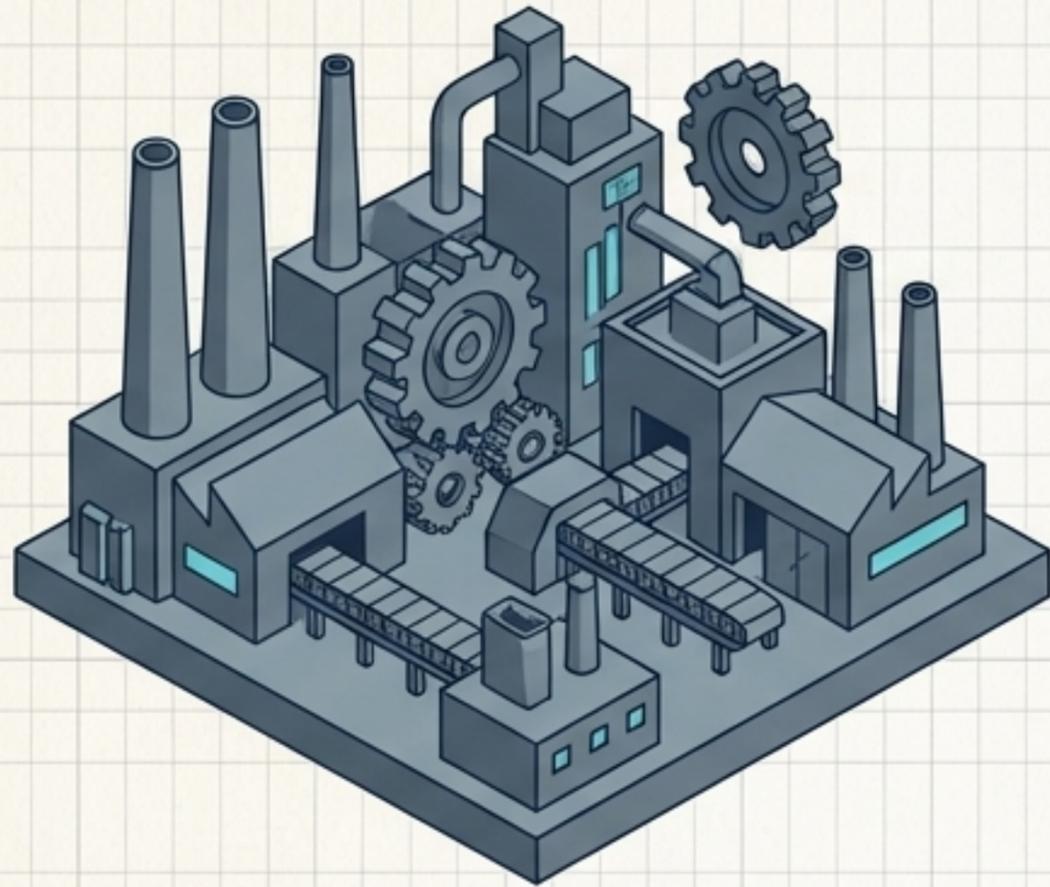
# 企業の体質比較：物理的法則としての財務基盤

$$\text{総資本} = \text{他人資本} + \text{自己資本}$$

比較項目	 膨張	 成長
主要な推進力	売上規模の拡大	収益性と生産性
資本構造	借入・負債依存	自己資本の蓄積
不況時のリスク	非常に高い（倒産リスク）	堅牢（高い生存能力）

物理的な産業において、この「必要資本」の法則を無視した企業は淘汰される。

# 必要資本のシフト：工業社会から知識社会へ



## 工業社会

物理的資産（機械、設備、土地）が「必要資本」。  
財務諸表で正確に計測可能。

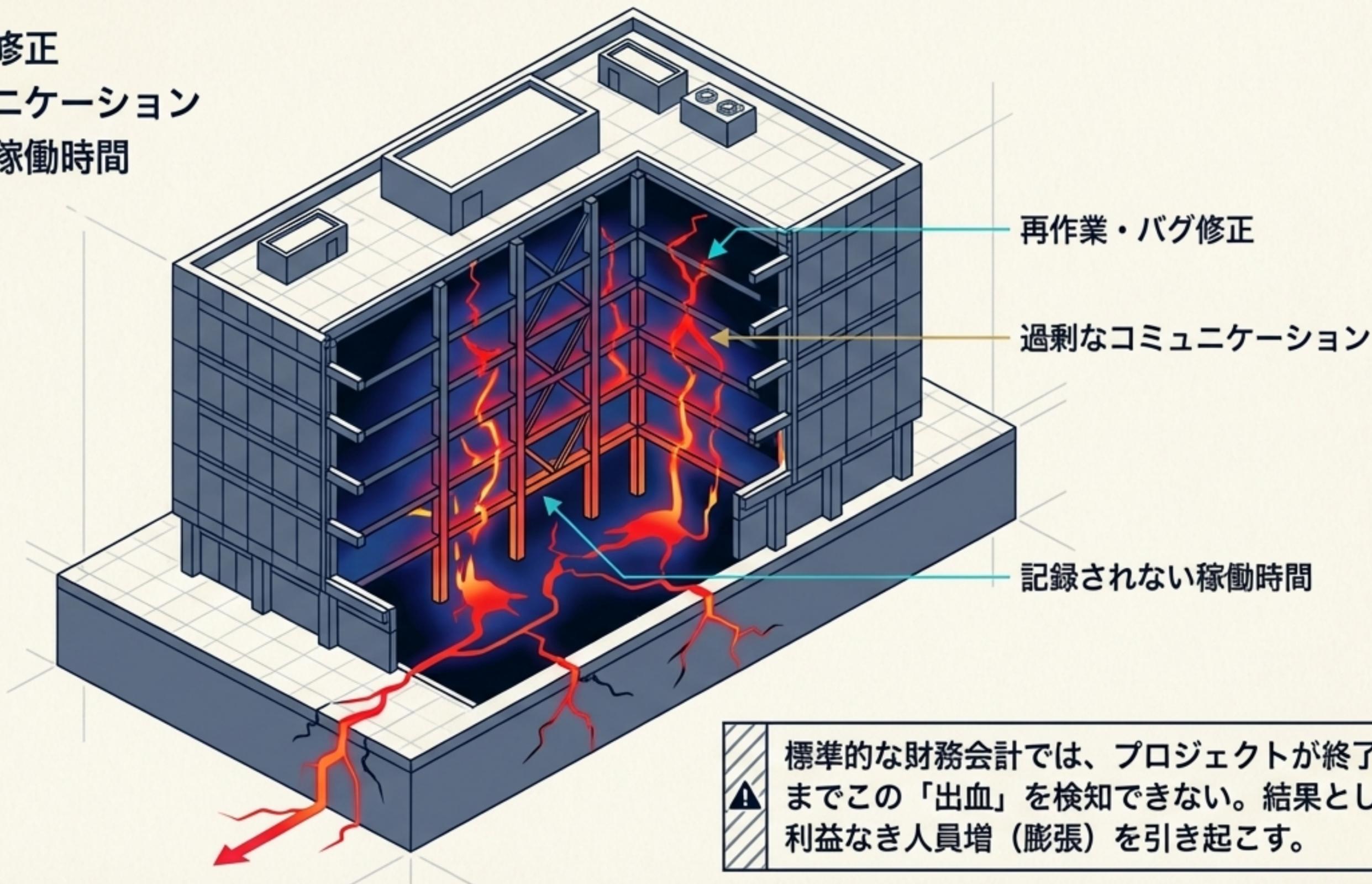
## 知識社会

専門知識、ソフトウェア、人材の「時間」が「必要資本」。  
伝統的な会計では可視化されない無形資産。

プロジェクト型ビジネス（IT、コンサルティング、クリエイティブ）において、最大の資本は「目に見えない」。

# 現代の危機：見えないコストによる「無自覚な膨張」

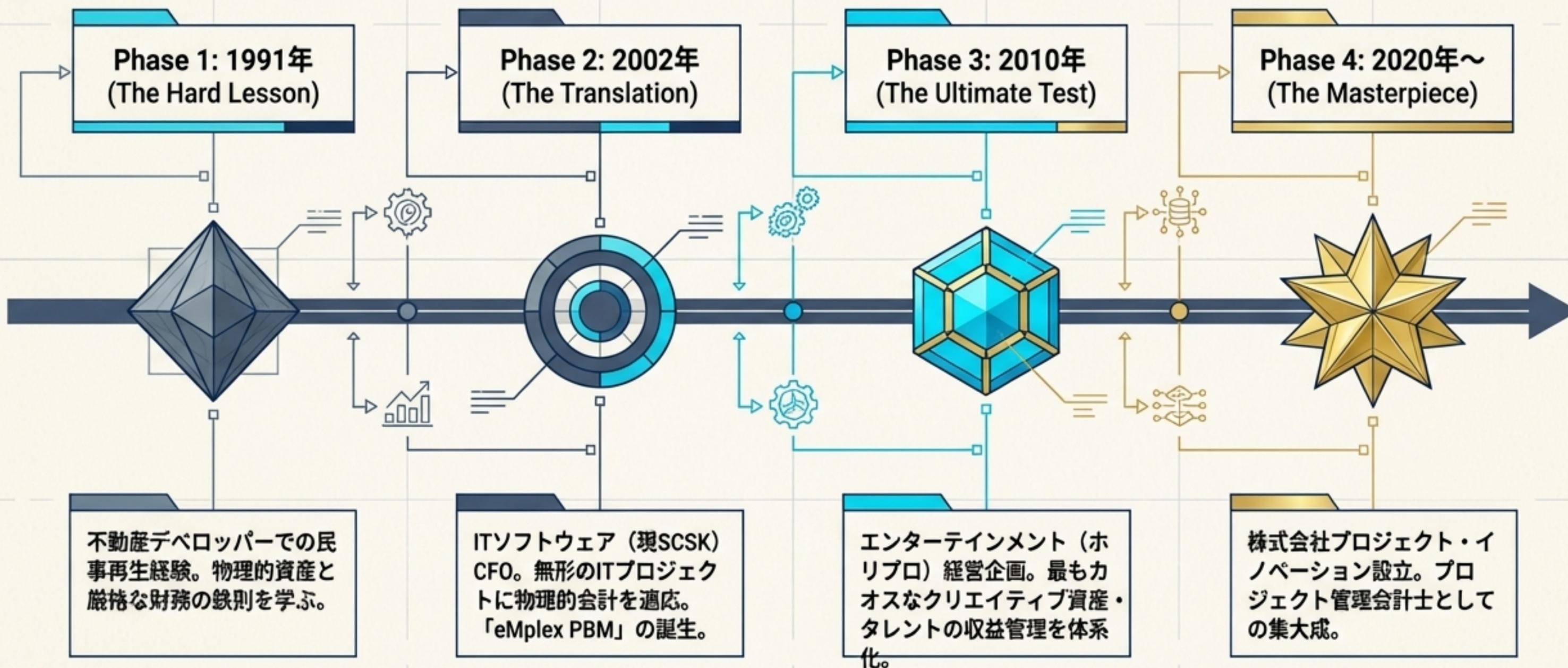
- ・ 再作業・バグ修正
- ・ 過剰なコミュニケーション
- ・ 記録されない稼働時間



# メソドロジーの進化：物理的財務から無形資産へ

## Methodology Timeline

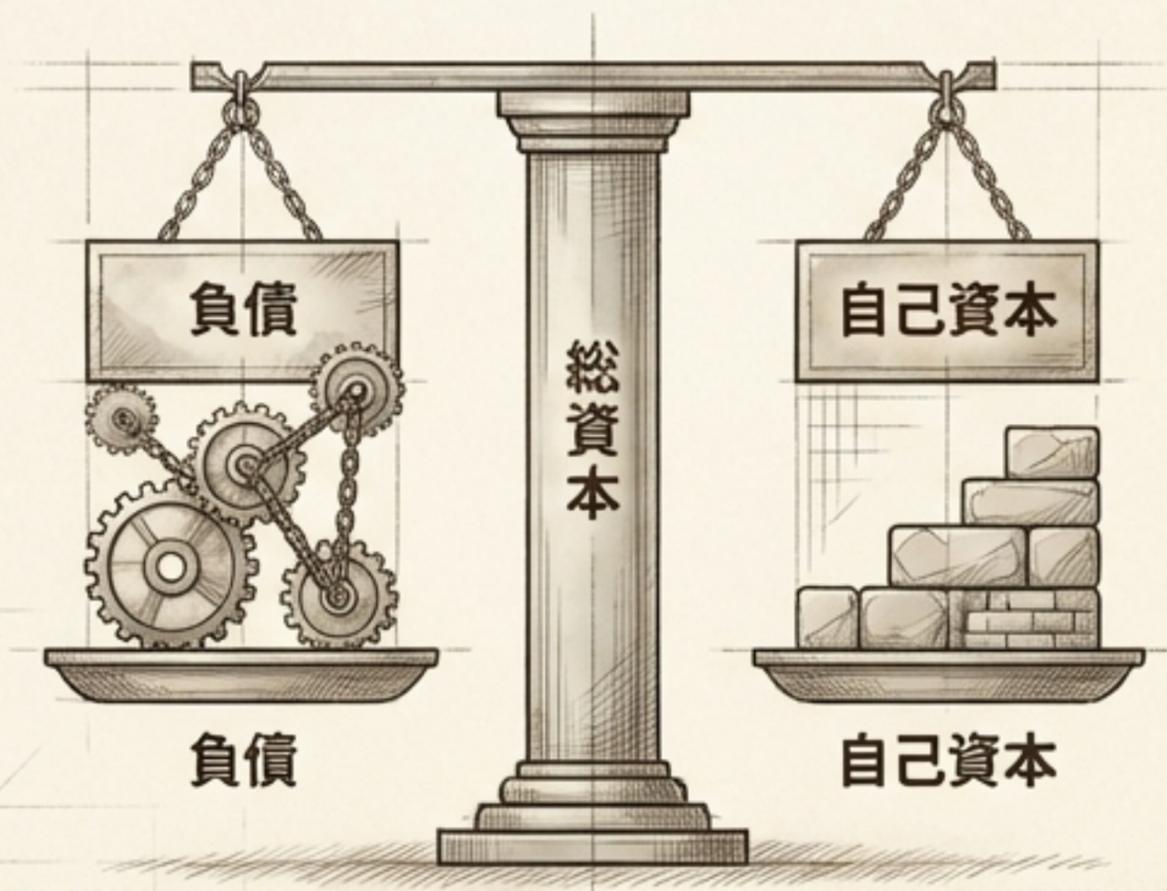
代表取締役CEO 古谷幸治  
- 知識労働者の生産性を測る伝道師



# 知識社会の新たな方程式

## 【伝統的方程式】

$$\text{総資本} = \text{負債} + \text{自己資本}$$



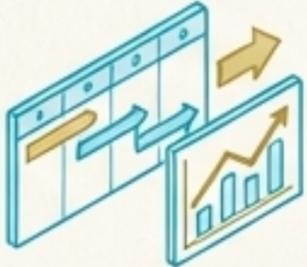
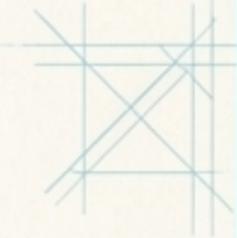
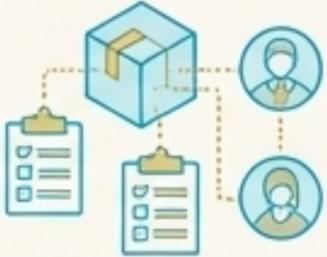
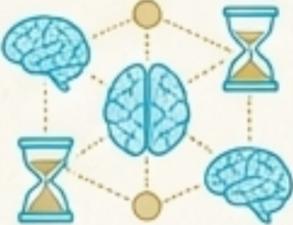
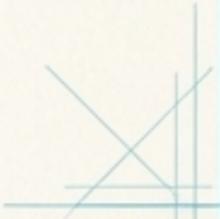
## 【知識社会の方程式】

$$\text{プロジェクト利益} = (\text{タレントの稼働能力} \times \text{稼働率}) - \text{隠れたプロジェクトコスト}$$



現代における「強靱な自己資本」とは、銀行口座の現金ではない。  
「正確に計測され、最適にアサインされた専門家の時間」そのものである。

# 過去の記録から未来の設計へ：会計パラダイムの転換

	財務会計		プロジェクト管理会計	
指標の性質		遅行指標 / 過去のP&L 		先行指標 / プロジェクト完了時のコスト予測 
解像度		全社・事業部単位		プロジェクト・タスク・個人単位
管理対象		物理的な在庫と現金 		人間の時間と知識資産 



財務会計は建物の「外観写真」。  
プロジェクト管理会計は、現在進行形の「構造設計図」である。

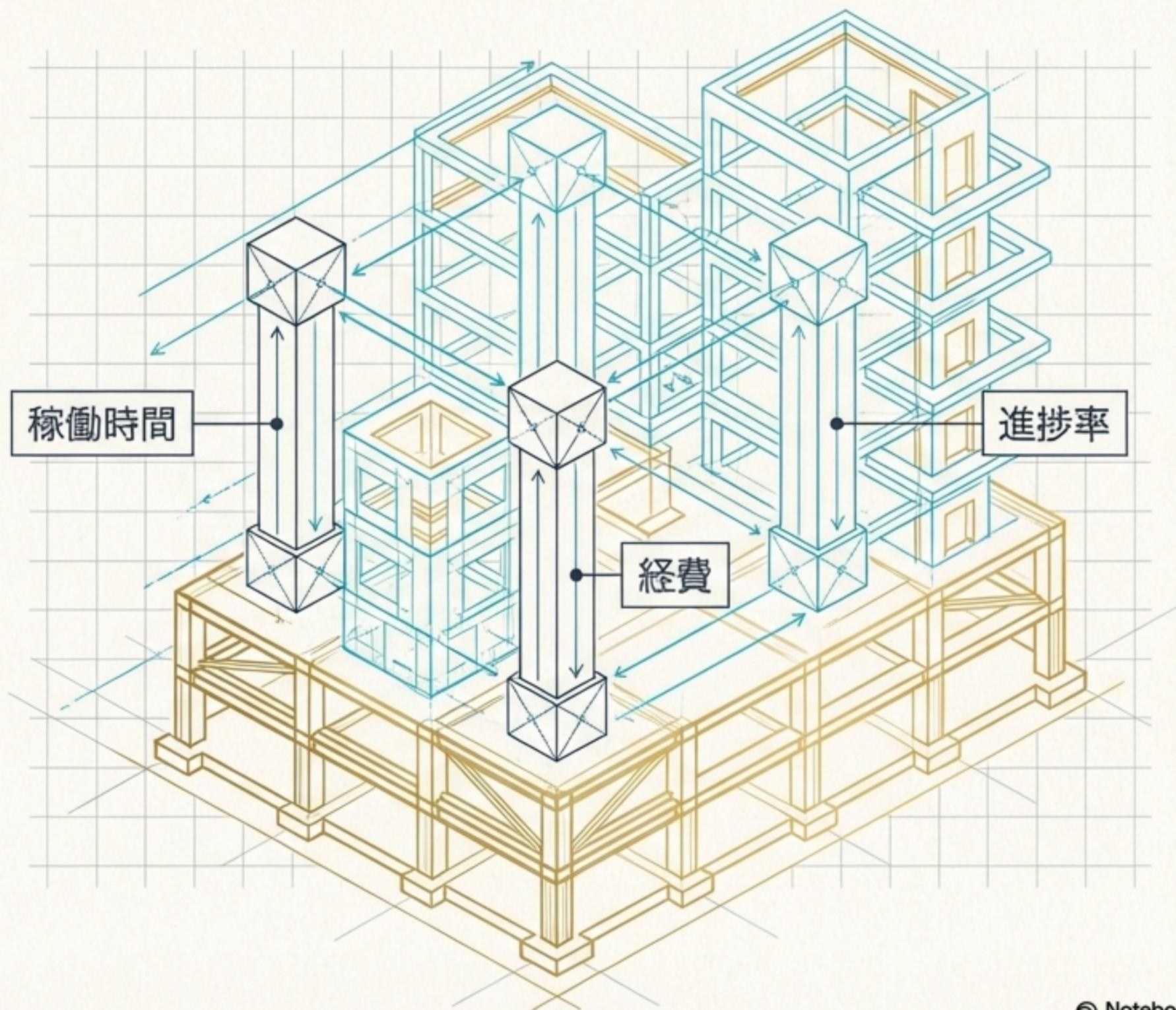


# プロジェクト管理会計：知識資産のアーキテクチャ

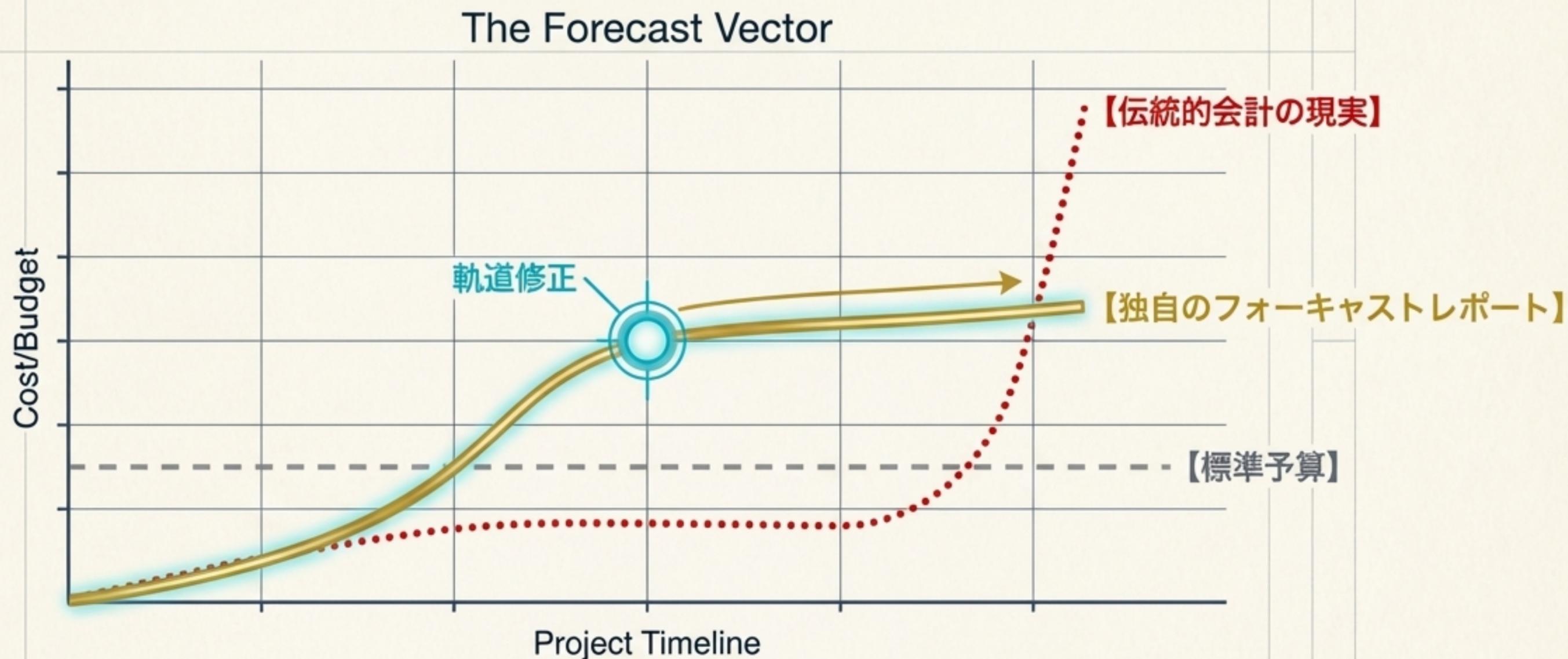
プロジェクトごとの採算管理の仕組みを構築する。

研究開発、バグ修正、バージョンアップなど、ソフトウェア・IT・クリエイティブ特有の流動的な業務を、精緻な「プロジェクト単位」の収益として可視化する。

経験と勘に頼る経営から、データに基づく「設計された成長」へ。

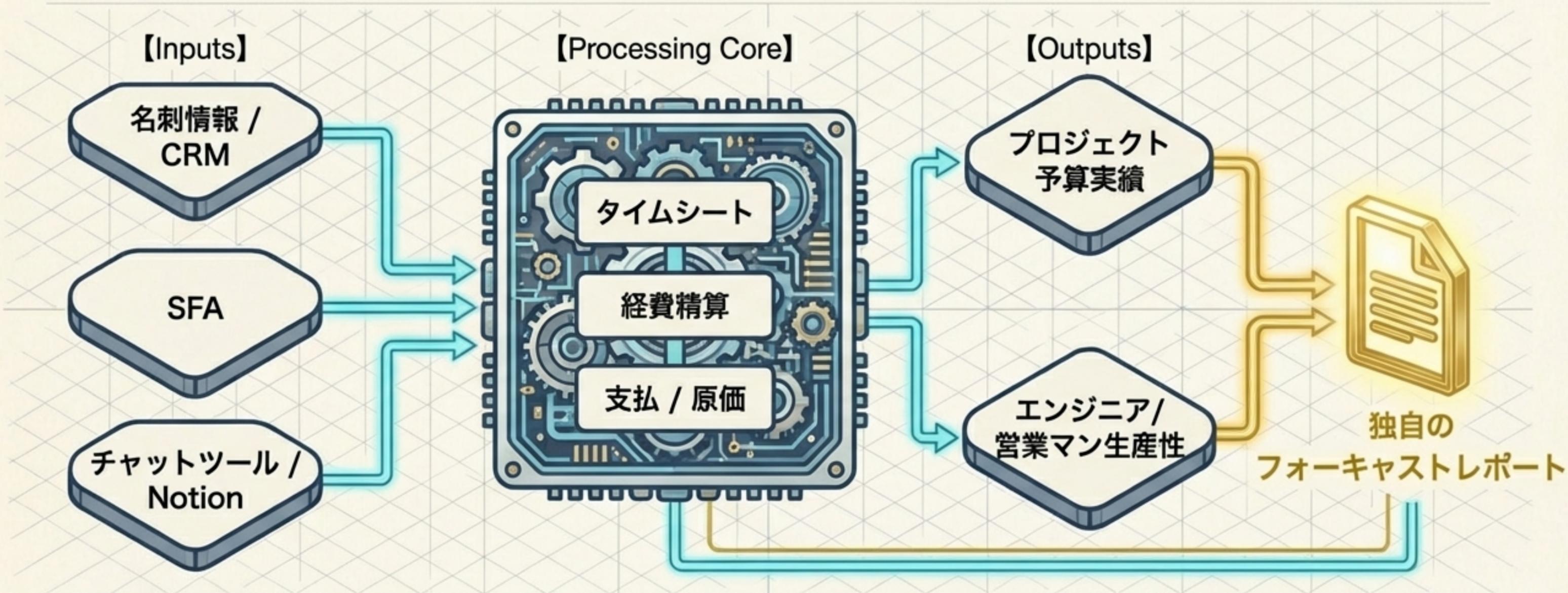


# フォーキャストの軌跡：未来の赤字を未然に防ぐ



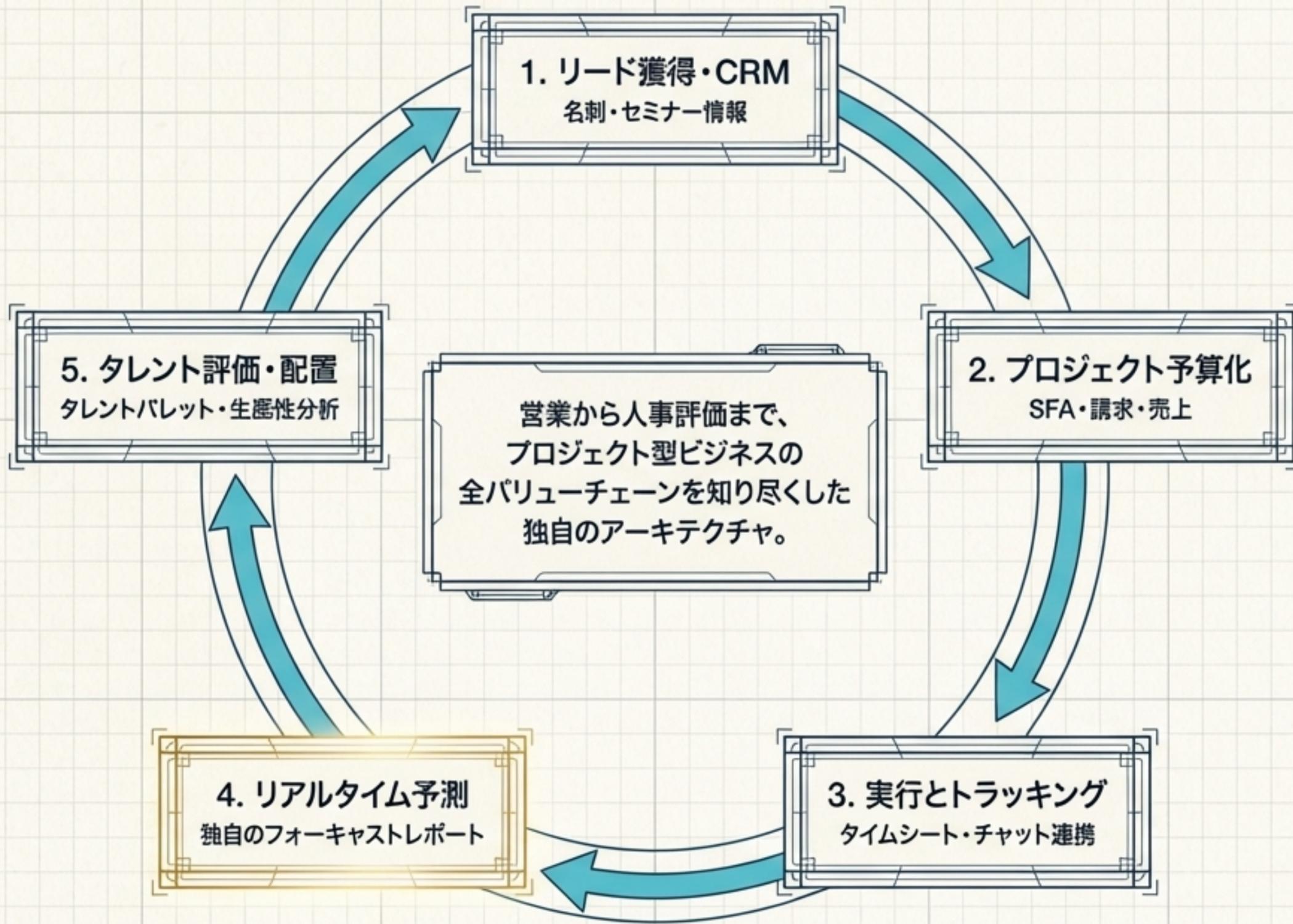
リアルタイムの稼働実績と経費入力に基づき、着地見込みを常に再計算。  
手遅れになる前に、プロジェクトの軌道修正を可能にする。

# 収益性エンジン：散在するデータから予測を練成する



単なるツールの導入ではない。16の独立した業務プロセスをシームレスに結合し、プロジェクトの未来を映し出す単一のエンジンを構築する。

# プロジェクトイノベーション・エコシステム



# 設計図の実装：6つのコンサルティング・アプローチ

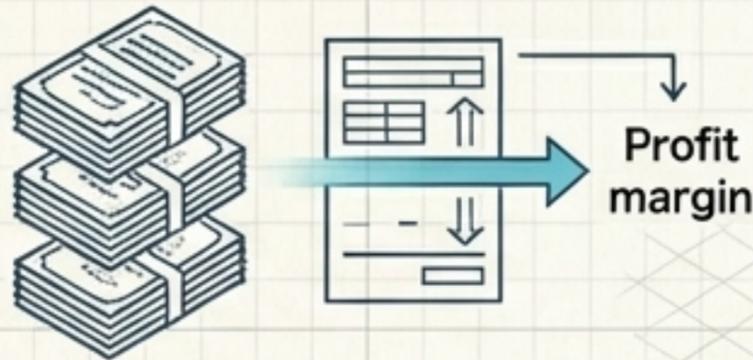
## 1. 事業別粗利益レポート

事業ポートフォリオの健全性可視化



## 2. プロジェクト収支実績レポート

プロジェクト単位の真の利益確定



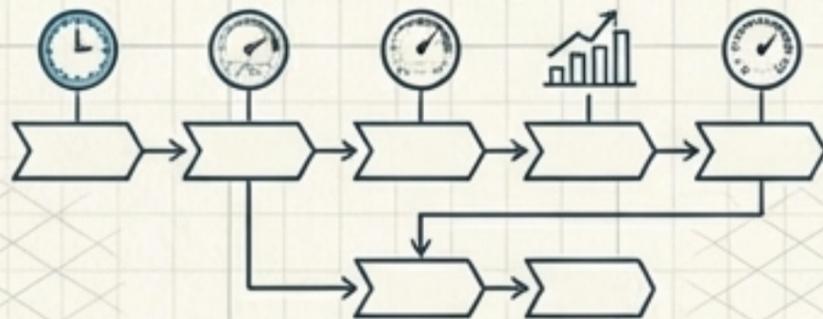
## 3. フォーキャストレポート

未来の着地見込みの動的予測



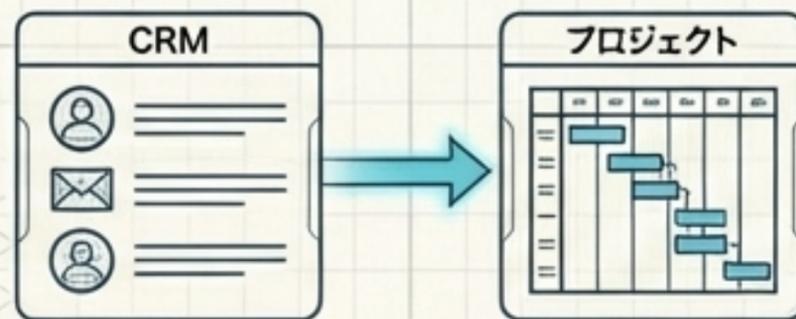
## 4. 稼働分析レポート

知識労働者のボトルネック特定



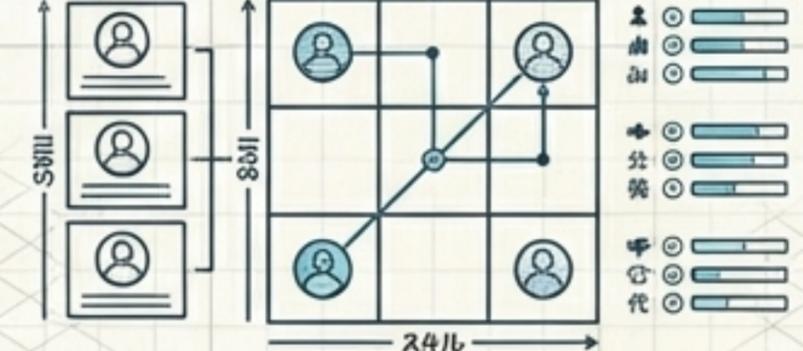
## 5. 営業支援の仕組み化

CRMからプロジェクトへのデータ連動



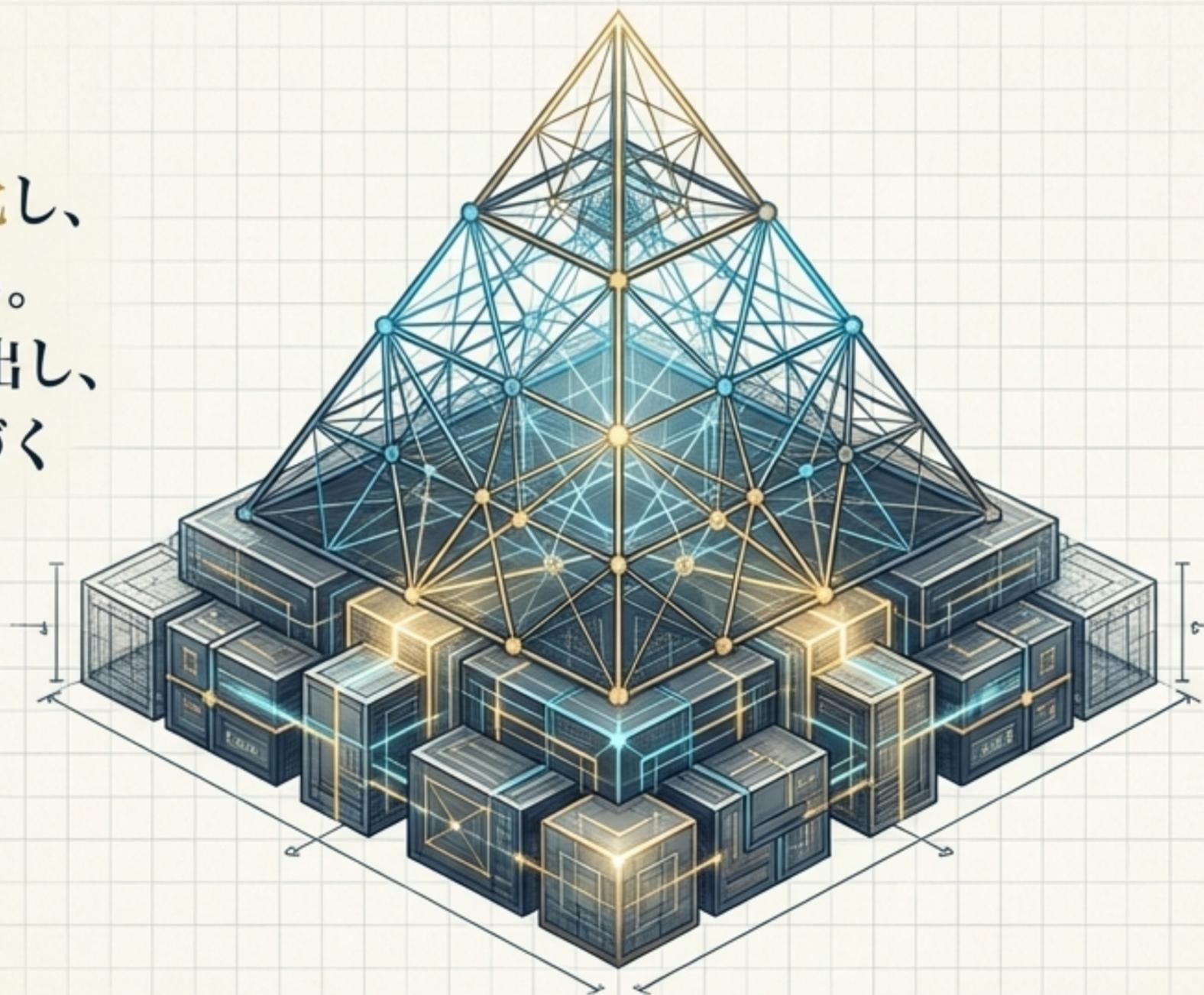
## 6. タレントマネジメント

生産性に基づく人材の最適配置と評価



# 知識労働者の生産性が、企業の真の体質を決める

見えない資産を可視化し、  
未来の収益を設計する。  
「膨張」の罠から抜け出し、  
強靱な自己資本に基づく  
「真の成長」へ。



プロジェクト管理会計で、知識社会を勝ち抜く構造を。 — 株式会社プロジェクト・イノベーション